

令和8年度 第1回八幡地域協議会会議録【概要版】

日 時 令和8年6月19日（金）午後7時～午後9時
場 所 八幡タウンセンター 第3・第4会議室
出 席 者 12名
出席委員 1号委員 池田 洋、島井 里美、佐藤 敬二、小松 茂
遠田 修、後藤 桂子、池田 修、加藤 隆子
御船 浩弥
2号委員 信夫 効次、高橋 知美
3号委員 池田 香
欠 席 者 3名（1号委員 池田 義則、佐々木 慶則、小野 良文）
八幡総合支所出席者 支所長 斎藤 春樹、支所長補佐 遠田 博
議事日程 1 開 会
2 挨 拶
3 会議録署名人指名
4 報 告
（1）地域コミュニティ推進計画について
（2）市長報告会の概要について
（3）令和8年度酒田市予算（八幡総合支所関係）について
5 協 議
（1）八幡地域協議会年間計画について
（2）意見交換
6 その他
7 閉 会

1 開 会

○小松副会長開会

2 挨 拶

○信夫会長

3 会議録署名人指名

○信夫議長 佐藤啓二委員、遠田修委員を指名。

4 報 告

○信夫議長

（1）地域コミュニティ推進計画について

＜まちづくり推進課長より上記計画と、それに係るワークショップの開催を説明。＞

○信夫議長

具体的に、何を持ってどこをどこで目的を持っていくのか、どこを終着点にしようとするのか、その辺がちょっと見えない。

○荒木課長

具体的に自分たちの自治会とかコミュニティ振興会が機能の強化を図れる、機能維持を図れる、活性化を図れる、そういった手引書になるようなものを、まずは作りたいと考えている。実際この策定過程に関わっていただくと、わかりやすくなるかなと思うので、ぜひ機会があればワークショップ等にもご参加いただきたい。

○池田香委員

いつも例えばこういう意見交換をして、どうした方がいいといっても、問題なのは、この真ん中で中心的にやれるリーダーがいない。

○荒木課長

そのとおり、若い人たちがなかなか出てこない、関わってもらえないというのがある。課題としてこの先高齢化も少子化も進んでいく。

いかにして若い人たちが地域活動に関わってもらえるか、若い人たちに聞かないとわからない。ということもあって「酒田コミュニティ財団」があるが、その組織はその市内の若い人たちが、市の取り組みとかに関わってもらえるような、何か手助けをする仲間の集まりだが、酒田コミュニティ財団の評議員には阿部彩人さんも入っている。

このたび酒田コミュニティ財団を、この原案作成委員会に入れることにして、自治会連合会、コミュニティ振興会からも了承いただいて、その人たちから知恵をいただこうかと想定している。

○池田香委員

地域で頑張ってくれる人材をどうやって見つけ出していくか、そこが大きな課題。

○荒木課長

どういう解決方法があるかというのをみんなで知恵を出し合って、特にその若い世代、コミュニティ財団の皆さんからもいろいろ知恵を出してもらえたらいい。良いアイデアが出てくることを期待している。

○池田修委員

コミ振といっても、大きい組織で、その中に例えば保全会もあるし、消防もある。

地域を考えると一番大事なものは、現場で頑張ってるような人たち、保全会の組織もそうだし、消防の組織もそうだし、実際動いてる人、現場にいる人たちの意見を聞いて、将来の担い手、後継者育成をどうするのかとか、そういった声を聞かないと、駄目ではないかと考える。

○信夫議長

いいご意見を頂戴した。具体的にはまだ先の話があるかと思うが、ひとつお願いとして、地域のコミュニティを主体にしてもらいたい。このBを進めるためのAではないかと懸念する。主体であるのはこの地域のコミュニティだということを念頭に置いて、この計画を策定してもらいたい。施設をなくするのを力でまとめていくと、今度何かおかしくなってしまう。よろしく願います。

○荒木課長

承知した。

< 報告（２）市長報告会の概要について事務局より報告。 >

○高橋知美委員

防災無線が聞き取れなかった場合、電話で確認できるようにということで、こちらでチラシを置いて、皆さんにお伝えをしてるが、電話しても繋がらない状況が起きているので、せっかく周知しているのに繋がらないと意味がないので検討してほしい。

○信夫議長

話し中で繋がらないということですね。回線が一つだから繋がらない。電話をかけてみて、実際にわかる。

○斎藤支所長

うちは放送する側なので架ける側ではないが、状況は承知した。電話番号出しているのに、それが繋がらないのではよろしくないと思う。電話で応えるはずの電話が話し中だということは、大きな課題だなと感じたところ。貴重なご意見とさせていただきたい。

○池田洋委員

ラインでも送っているが、ラインを見る人とか、スマホを持って登録できている人は少ない。周知をきちんとしてもらえればなと思う。ラインはリアルタイムなのか。

○斎藤支所長

ほぼリアルタイムである。

○池田洋委員

ホームページはリアルじゃない。

○斎藤支所長

ホームページは、CMS っていう独自のホームページシステムから入って行って許可を得ないとアップできないとかもあるので、どうしてもホームページは時間かかる。

○御船浩弥委員

住居の密閉性が良くなってきたのもあり、荒瀬の防災無線は聞こえない。

○信夫議長

消防出動のホームページがあるが、あれぐらい簡素でもいいので、どこどこで建物火災みたいな感じであれだと早くていい。この辺は後の意見交換で行うこととしたい。とてもいい意見が出ている。

それと前回の市長報告で私が一番印象を受けたのは、子どもがいなくなっているということ。大変なことがあると思うと子どもが産まれたら 700 万でも 500 万でもくれてやるぐらいや地域での努力をもって、子ども増やすぐらいの気持ちがあればいいが、そういうのもない。去年の八幡の出生数は 7 人である。

次は予算について。

<（３）令和 8 年度酒田市予算（八幡総合支所関係）について事務局より報告。 >

○信夫議長

改善を要求したジオツーリズム施設の優先順位付けすべきところは、したいという話だった。

○池田洋委員

せっかくこのように協議会で出たら、ある意味緊急度のある話だと思う。それが、話をし

ました、それでおしまいでしたでは、意味がないと思われる。

○斎藤支所長

先日の6月議会でもジオパークの話題が出て、今般の世界認定に向けてどういう動きしていくかっていうところも質問があつて、それもなかなか動きが見えないという議員さんからの質問であつた。尤もだと思っている。

5 協 議

○信夫議長

協議（1）地域協議会の年間計画

○遠田補佐

＜事務局より説明＞

○信夫議長

去年並みで実施していくということ。どうしても大きいものがあるという場合はまた別に開催もということで、よろしいか。

（異議なしの声）

○信夫議長

協議（2）意見交換

○池田洋委員

毎年感じているが、ここは地域の代表というか、そういう人たちが出てきている。

こういった場の声を受けて、どれだけが織り込まれているのか、いないのか。それがわかるようなしていただきたい。ただのガス抜きだったらこの会議は必要ない。

この問題はは解決しましたよということもしっかりと議事録に載るような確認をしないと。それがあるとないのでこの議論をすることの意義があるかないかが変わってくるような気がする。そういうのがわからないと、結局我々は闇に向かって声を発しているかという、気持ちになってしまう。そういうことだけはぜひ改善していただきたい。

○斎藤支所長

何がどう反映されたということが、わかるようなことをやっていきたいと思う。

○島井里美委員

次回が11月までないという点で、去年なんかはもう11月になってくると私の方が忘れてしまう。これもコンスタントにあつたら大変ではあるが。

それと先ほどの報告のとおり、予算を付けてくれているが、やっぱり使いづらいとなると、結局みんな使わないで、今度は予算がゼロになってしまう。とても残念なことなので、やっぱり私自身もなるべくせつかく予算付けしてくれたものに対しては、行政の何かに応えようと。提案ではないが、使っていないともったいない気がするので、そういう呼びかけというのをできたらいいんじゃないかと思う。

○佐藤敬二委員

防災対策等、ハザードマップの見直しとかに関して、今どういう動きしてるのかというのがある。一昨年の洪水の関係で、工程表が出ているところもあるが、被災箇所もまだきちんと把握していないところもあるような気がする。説明会では、荒瀬川が終わったら日向川と言われた。日向川沿岸の住民にしてみたら耳を疑うような話だった。発信の仕方かもしれな

いが、説明とペーパーをもらえばいいというのかもしれないが。

あと、最後またその災害が起きないために、ハザードマップを見直して、避難判断に役立てるためにも、計画したものが何か見えてこないと駄目なのではないかと思う。

防災対策でホームページや携帯で見ると言われても、逃げるのかどうするのかみたいな感じになる。だから、耳に入ってくる、目で読むとかあるようだが、それ以上、総合的に何かこう、改善していく方法はないかなと思う。

○遠田修委員

今、大沢は復興途中というか、そういう感じだが、農地を回復したところはしたが、耕起すれば石ころだらけでロータリーの歯は壊れ、田植機の爪も折れている状況であり、これが復旧なのかという疑問な点もある。これが復興なのかと。業者が大きい仕事を取って、表土を入れ替えただけで終わりとも聞いている。

石ころが残っている田を残されて、これで終わりですとは、これで平等、復興が平等だということが言えるのかと思う。あとは林道とか、そういうのもやっぱりイノシシとかクマが出てくる。林道の復旧もないんで、車が通れないもんだから、クマとかイノシシは怖くなくてもう下に降りてくるような感じがするので、そういうのを早く復旧してほしいなというふうにことを感じている。

○後藤桂子委員

防災に関してやっぱり災害がまた来たら、どうしたらいいんだろう常に思っている。実際に避難できる場所はない。結局私もあのときはコミセンに遅くなったかなと思ったが、行ったらやっぱりすごく川があふれてて、駐車場に入れなかったという、そういう経験がある。この前、山大教授による防災関係の講演をやったが、夜だったせいか、参加者が少なかった。来ていた人の情報は得られたが、来ていないところの情報が全くなくて、全体像の把握ができなかった。高齢化で地区の夜の集まりに出るのが億劫だっという人の声が聞こえてきて、なかなかうまく進めない感じがする。運転もしないという方々が多くなって日々本当にこの高齢化というのが実感できて、この先どうなるんだろうって不安になる。今日もある人に相談を持ちかけられたのもそれはやっぱり高齢化ならではの相談。私もどうしたらいいかわからなくてから保健師さんに相談したんですけど、こういうのがだんだん増えていくんだろうなという。なんかあまり期待できないというか、将来がなんか悲しいなという感じがする。

○池田修委員

今大雨災害の復旧の話いろいろ出ていますが、日向地区の方ですと日向川の砂防工事も無事に終わって、今田んぼの方の復旧の方もほぼ終わって、今ちょうど湯の台の方の上り口の山が崩落した場所も今工事入ってます。おかげさまで順調に進んでいるのですが、問題なのが沢です。沢の一番土砂災害がひどかったところが、これは酒田市の管轄でもないし、県の管轄でもないし、どこの責任か、どこの管轄なのかわからないと言われて、そのままになっている。集落の途中登り口の手前、今見ると見づらくて大したことないようなんだけど、いざ雨が降ると、大変なところ。元の位置よりも何メートル、ひどいところは10メートルぐらいも下に流されて行った。元々、3メートルないし、4、5メートルしかない沢の幅がもう10メートル以上になっている。だからそこを直さないと、またいつ何が起こるか全然わからない状態、まずその責任の所在がわからないので、復旧計画も何にもない。それを

もう一度、どうするのかっていうのを考えていただきたい。

あと一つが信夫会長にお願いだが、鳥海山荘の件で、改装休館があったが、再オープン後、地元としてできるだけ使おうとしたところ宴会やオードブルはやっていないと言われた。ゆりんこも宴会をやめて、鳥海山荘も宴会をやめている。我々は夜使っているので、温泉入って、みんな新年会、忘年会また花火なんかあれば使っている。応援したいのでぜひまた戻してほしいなと、これはもう切なる要望。

○加藤隆子委員

防災の関係だが、山とか結構崩れたりして、避難してくださいと連絡があったが、避難したかどうかという確認。小学校に避難してきた人もいれば、家にいるとかさまざまあった。その場合に備えて連絡体制表みたいなものを地区でも必要な時期に来てるのかなと思う。電話番号くらいは出して、まず各地区の総務の人が自分の範囲を確認するとか、そういうのを作るべきでないかという気がしている。年寄りばかりだから普通の電話しかないので声掛けがいいとか言うが、どうしても連絡がつかなければ、そういうのでも連絡体制表みたいなものを作って各地区の区割りで確認し合うっていう体制をつくるべきでないかと思っていた。

車がないと移れない人も多分出てくるので、そういうときは若い人から軽トラに乗せるとか何とか移動手段を作り、知ってもらえるような連絡体制を市の決まりみたいな感じで連絡体制、防災対応の時の作るべきではないかなと思っている。

あともう一つは、クマとかイノシシの対策についてだが、放任樹を地区全体でみんなチェックして、切ってもらえないとか、少し補助金を出してもらおうとかで切って、なるべく里に下りてこないようにする補助制度を作ってもらえればなと思う。イノシシはみんな山の法面をみんな削って、そこ大雨が降ると土砂崩れするような恐れがあると思う。捕まえるワナの設置とかそういうのもしてもらえればなと思う。

あとは人口減少は、マッチングとか何かそういうのは昔はなかったが、婚活アドバイザーみたいな感じが必要と感じる。

○御船浩弥委員

さきほど、パトカーがイノシシを追っかけていったって言っていたが、私もちょうどその時、そのガソリンスタンドで見て、この辺で初めて見た。

さっき市長からジビエの活用は民間でやれみたいなお答えだったようだが、そこは民間でもいいが、民間が参入しやすいような旗振りしてもらわないとなかなかハードル高い。あとやっぱり猟友会がだんだん数減っているのも、支援があるといいかと思う。

防災の話も出ているが、防災の要は消防団だと思う。消防団のなり手がいない。入団の勧誘に行っても、親の方から断られる時代になっている。重要性は分かっているが親がうちの子は入れない、と断る。今は女性消防団の活動もしているのも、女性でも興味のある女性がいたら、ぜひ紹介していただければと思う。

○高橋知美委員

防災関係だが、新体育館ができて中を見させてもらったが、そういうときに避難所として使うと言われているのに備蓄がないことを知って、どうしてなんだろうと。実際に災害が起こったときには他からトラックで運んで来ると言われたけど、それまで来なければ何も無い状態で私達は体育館で過ごさなければいけないっていうのを聞いた瞬間に、私達のあの避難所って実際役に立つのかなっていうのがまず一番に来た。

やっぱり災害があったときにすぐ避難できるっていうところでは、やはり皆さんも経験したように、やっぱりほっと一息ついて、何か一口でも何か何でももらって、周りの人と話し合えずな場所そういうのがやっぱり避難所だと思う。なのに何もないと。確かに体育館の床はすごくいい床だったが、それだけに地べたに座って、私達はそのトラックがいつ来るかわからない状況で避難するっていうのはちょっとおかしいんじゃないかと、すごく怖い避難所だなと思ったので、そこは一番検討してほしいところだと思う。

あとはジオパークの件だが、本当ジオパークって言って飛島とか、外部の皆さんが一生懸命されてるっていうのは見ていたし経験したので、すごくいい活動だなと思うが、やっぱり予算というかその予算内でやるっていうので限りがあると思うが、せっかくジオパークってわかるTシャツを皆さん着ているのに、そのTシャツが広まらないというか、限られたところでしかTシャツは売っておらず、毎年各施設では、そのTシャツを一応注文するが、もっと視野を広げて、全体で盛り上げていかない限りは活動がうまくいかないんじゃないかなっていうのをすごく感じるので、欲しいっていう人もいるのに、PRのためにもうちょっと置いて欲しいなっていうのをすごく感じた。

○斎藤支所長

体育館に関連してだが、新体育館の完成記念が明日ある。朝9時からお餅も何か配るそうなので、あの中でプロのバスケットボールの方たちが来て、子どもたちに教えるっていうのを見ることができるので、ぜひ皆さん参加していただければと思う。

○池田香委員

地域活動は昔からあるわけだが、私のところは新興住宅地なので70~80件あるのですが日中は誰もいない。防災という話が出てくるけど、地区防災組織が一応あるのだが、実際そうなったときにどうするかっていうのは全くはい。それぐらいその人が実際そのときに誰が避難場所まで連れていくかというのが、全くできていないのが課題と考える。

○小松副会長

体育館で管理人をしている。窓口はスポーツ推進課だが、スポーツ推進課に聞いても話が変わってしまう。担当課が違うのでわからないが、備蓄の件を含めてこれからの予定が分かるといい。

○斎藤支所長

皆さんのお話聞いて、全体の話を見せてもらおうと、こちらの情報が皆さんに伝わっていないことを痛感して本当に申し訳ないという気持ち。

本来であれば先ほどの話も含め、情報がどうやって伝わっているのか、意見が叶ったのか叶ってないのかっていう話など本当重要な部分。

その上で話題として出た体育館備蓄の話を見せてもらおうと、議会でその話題を聞いたというのが本音、議会で地元の後藤啓議員が質問した。

体育館の備蓄がないけども、大丈夫なのかというふうな話だった。どういうふうな市当局の答えだったかっていうと、基本的には河川改修も途中だし、状況としては前よりも早い段階で災害が起こる可能性も高いということで、早く避難を呼びかけ、一時避難場所は確かに体育館でも、そこはまず優先避難の場所として小学校、中学校というところ。

その後で人の受け入れがいっぱいだったときは体育館に逃げるとか、そのときに備蓄品を市の方で持っていくというふうな話をしていた。実際、八幡だけでなく他の地区も同様だ

が、備蓄品は学校にしかない。食料品含め、あとはコミセンの資機材庫とかになる。

皆さんのご心配は尤もと思うが、今は置く場所だったり、避難先の対応だったりというようなことを考えると、今の段階では申し訳ないが、おそらく今のところはそうするしかないかなというふうに思っている。

ただ、物資の搬入は、災害が警報が出れば我々泊まり込みするわけだが、みんな昼でも夜でもずっと対応する。その際、避難者が大勢来るという情報があればすぐ備蓄品は持つていくような体制をとるので、そこはご安心していただきたい。

逃げ方がどうかっていうところは、確かに皆さんのいろんな意見があって、意味があると思うが、そこは我々が全力で全力でお届けするという体制はとらせていただく。今のところ体育館には備蓄品はないけども、備蓄品がない避難所には必ず市の職員が持つていく。そこは確実にさせていただく。

そういったところが伝わっていないというか、伝えるようなことを行政の方でもやっていかなければならない。避難所の話の例だが、皆さんおっしゃった内容に関しても、情報を伝える場を設けないといけないんだなと。災害の観点に関しても、市の方でもあの段階で被災の状況のお知らせは難しいという話が当時からあって、その他の部分でやろうとしている。

タイミングが遅いと言われれば本当にしっかり受けるしかないが、まずは改善をしていくというところは我々も考えているので、そこは少しご容赦いただければと思っている。よろしく願う。

○信夫議長

私の方で気になってるのは、気象庁のレベルの変更。警戒レベルを変更したり、それに伴ってレベル3でもって高齢者避難。高齢者避難というときに避難所を開設すべきなのかしらなくていいのか。その共通認識がない。八幡に5ヶ所の避難所でも、その共通した認識はないので、やっぱり酒田市が音頭をとって、きちっと本当にこういう時はこうっていう、ちゃんと指導書じゃないが作るべき。そうしないと、皆バラバラで動いたんでは何にもならない。高齢者は避難所に行きましょうって出た場合、それが避難所開設やマニュアルがはつきりする。

○斎藤支所長

基本的には避難所の開設は、市の災害対策本部の方で判断し、テレビで流したり、一斉の携帯電話の通知でお知らせをする。それで避難してくださいという連絡をしている。あの警戒レベルに合わせていくと、多分地区ごとに避難の状況が変わってくるということになる。

○信夫議長

地域の認識と行政の認識の共有は一緒にやらないと駄目。それを一緒にする機会を設けていただきたい。

○斎藤支所長

承知した。

○信夫議長

全部関係者を集めて、こういうときはこうしましょう、こういった場合は行政がこうやって支援しますよというようなことを大至急やっていきたい。

○斎藤支所長

ぜひやりたいと考える。危機管理課も交えてそこは調整をさせていただく。

○池田洋委員

体育館を避難所にとの件だが物資を保管するということは、その管理が必要であるということ。そういう意味で小学校とか、コミセンというように、管理者が常駐またはそれに近い状態にいるところとの避難所になる。体育館は通常は違う用途に使われているけども、収容能力があるがゆえにであるので、物資の話とは違うと思う。

ここは幸いなのは、支所がこんな近くあるなら、支所を保管所にしてもらって、物資を持っていくと言ってるわけだから、このシステムに作っていただいた方がいいと思う。

○斎藤支所長

それと、避難の際は自前の備蓄品、防災グッズを持って避難していただきたい。防災意識は、自助・共助・公助というものの順番を皆さんでやっぱ共有していかなければならない。

そこは我々が、意識を高めていくような周知をしていかなければならないと感じたところ。備蓄品は非常用なので大したものではないし、ぜひ自分たちで持ち合うようなそんな意識も少し作っていければなと思っているところ。

○高橋知美委員

災害時に自分が経験したことが、避難所に行ったときに情報が一切入ってこなかった。その点は不安で、やっぱり情報はできる範囲でいいのに、それもなかったの私が行ったところはすごい不安だった。

家にいつ頃帰っていいのか、みんなで話し合って、住民同士の話し合いで何か書いたりとかしていたが、やっぱり市役所の職員が居てくれて、見てくれてはいるのだが、でも自分たちの決断力も大事なのは分かるが、私達よりも情報が入りやすい職員の方から、情報は流して欲しいなっていうのがすごく残念だった。

あと聞いた話によると、避難所で待機している職員も何をしていいのかわからないから携帯を見ていて、動かない職員もいたっていうところが、おかしいんじゃないかなっていうのはすごく感じた。分からないなら分からないなりの行動というのものもある。私達の認識もあると思うが、酒田市全体で防災の意識を高めてもいいのかなっていうのはすごく感じたので、そこら辺はお願いしたいなと思う。

職員の温度差だったりとかっていうことになると思うので、最低限の周知と、勉強、研修とか、そういうのも必要かと思う。

○信夫議長

よくわかりましたそれでは時間もありますので、協議については終了し、事務局の方お願いします。

6 その他

<質疑なし>

7 閉 会

○小松副会長 閉会

終了 20時55分